

2019. 8. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：9月3日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《8月のおはなし会で使った本》

『むしむしかくれんぼ』 堀川波/作・絵 教育画劇 2012

『おばけのてんぷら』 せなけいこ/作・絵 ポプラ社 2004 『きもだめし』 新井洋行/作 講談社 2016

『わにわにのおでかけ』 小風さち/ぶん 山口マオ/絵 福音館書店 2007

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<乳幼児から>

『みかづきちゃんげんきだよ』 東君平/著 亜紀書房 2019.7 ¥1200

ページを開くと右ページにはツキノワグマのみかづきちゃん、左ページにはお父さん。ページをめくる度に、耳、目、鼻…と1つずつお父さんとみかづきちゃんの身体を比べっこ。「とうさんの〇〇おおきいよ みかづきちゃんのは ちいさいよ ちいさくたって〇〇だよ」個性的な切り絵による絵本や童話で知られる東君平の代表作「みかづきちゃん」シリーズの復刊第2弾。

<絵本-5, 6歳から>

『おなかがいへった』 マメイケダ/作 WAVE出版 2019.6 ¥1700

朝ごはんの音とにおいて僕は目をあけた。今日のメニューは、白いご飯に味噌汁、目玉焼きにサラダ。家族ハイキングの時のお弁当、外食の天ぷら定食、海の家で食べる焼きトウモロコシにイカ焼き、お彼岸におばあちゃんが作ったおはぎ、お母さんの誕生日に家族で食べるすき焼きとケーキ。子どもの生活の中の食べ物にスポットを当てた、美味しいものがたくさんつまったお腹のすく絵本。

『ほんのなかのほんのなかのほん』 ジュリアン・ベール/さく シモン・バイ/え 木坂涼/やく くもん出版 2019.7 ¥1600

パパとママとの海水浴を楽しみにしていたトムくん。でもお昼を食べると2人はお昼寝。そこでトムくんは探検に。日が暮れ迷子になったトムくんが落ちていた本を開いてみると、そこには雪山へスキーに出かけたトムくんの話が。そこでもパパとママはお昼寝。また探検に出かけたトムくんはまた本を見つけ…。本の中にまた本が！ひとまわり小さな本が現れるポップな絵が楽しいしかけ絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『すごいたいじゅうどうごきません』 平田昌広/作 平田景/絵 国土社 2019.7 ¥1400

「すごいたいじゅうどうごきません」「すごいじゅうたいどうごきません」のように言葉に使われている文字をバラバラに並べ替えて、違う意味の言葉に作りかえる「アナグラム」。「いけでかんさつかいです」「けいさつかんでかいです」、「ぶーめらんをかってあそびこいこう」「ラーメンをかぶってあそびこいこう」など、絵を見ながら言葉遊びを楽しもう。言葉遊び絵本シリーズの第5弾。

<絵本-小学校中学年から>

『海ガラスの夏』 ミシェル・ハウツ/文 バグラム・イバトゥーリン/絵 島式子/訳 BL出版 2019.7 ¥1600

島にあるおばあちゃんの家で夏を過ごしていたトーマスは、ある朝、海辺で海ガラスを見つける。海に落ちたガラスが、海水や砂にもまれて角が取れ丸くなった海ガラス。そのひとつひとつに物語がある。その夜、海ガラスを枕元に置いて寝たトーマスは進水式の夢をみた。夏の間トーマスは海ガラスに夢中になる。そして季節が巡り…。精緻に描かれた美しい絵もじっくり味わいたい絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『きょうからトイレさん』 片平直樹/作 たごもりのりこ/絵 文研出版 2019.6 ¥1200

トイレにいる、おばけでも神様でもないぼく。ただ浮かんでフワフワしているぼく。ぼくっていったい？そう思いながら、小学校のトイレにやってくると、ぼくが見えるという男の子にこう言われた。「きみはトイレさんでしょ。トイレさんが見守ってくれるから、安心してうんちをしなさいってお母さんに言われた。」と。これが、ぼくの役目なんだ！小学校入学後に読んでおきたいお話。

<読み物-小学校中学年から>

『こどもしょくどう』 足立紳/原作 ひろはたえりこ/文 汐文社 2019.7 ¥1400

小5のぼくの家、一緒に帰ってくるタカシ。タカシの母親が育児放棄のため、食事おぼくの両親がやっている定食屋で食べるのだ。ある日、ワンボックスカーで生活している姉妹に出会う。おなかがすかせた様子が気になるぼくは、タカシと共に晩ごはんのおかずを届けることに。「なぜ今子ども食堂が必要とされるのか」というテーマを、子どもの視点から描き出す。同名映画のノベライズ。

<読み物-小学校高学年から>

『手紙 ふたりの奇跡』 福田隆浩/著 講談社 2019.6 ¥1400

秋田に住む小6の穂乃香は、病気で亡くなった母親が、高校の修学旅行で出かけた長崎の思い出を楽しそうに話していたことを思い出した。少し秘密めいた修学旅行の真相を知りたいと、穂乃香は長崎に住む耕台に、調査の依頼をする。一方、穂乃香とは一切面識のない耕台は、突然のことに面食らってしまうが…。二人の手紙のやりとりだけで、小6の4月から1年間のお話が展開する作品。

『鬼遊び』 廣嶋玲子/作 おとないちあき/絵 小峰書店 2019.6 ¥1200

「探ってはいけない」と言われた蛍を、袋にいっぱい採ったために、鬼蛍にされそうになったセイジ。「一番欲しいと思った金魚だけはとらずにあきらめる」という約束が守れずに、緑沼の金魚にならされたコテツ。知らずに鬼をよびよせてしまった子どもたちに訪れる「恐怖」を描く連作短編集。『鬼よぶわらべ歌』に続く「鬼遊びシリーズ」第2巻。

『八月のひかり』 中島信子/著 汐文社 2019.7 ¥1400

小5の美貴は、小2の弟と母との3人家族。離婚した父は養育費を入れず、収入は母のスーパーのパート代だけで、生活はとても苦しかった。夏休み、一緒に遊ぶような友だちはおらず、節約のためにテレビもつけず、暑いアパートの中でもくもくと家事をこなす美貴。どうしてこうなの？誰のせいなの？子どもの貧困を正面から取り上げ、子どもたちの繊細な気持ちを深く描き出す。

<読み物—中学生から>

『しずかな魔女』 市川朔久子/作 岩崎書店 2019.6 ¥1300

不登校の理由すら言葉にできず、息苦しさを抱えて毎日を図書館で過ごす中1の草子。さりげない気遣いをしてくれる司書の深津さんに、思い切って「しずかな子は、魔女に向いているという文章の出てる本を探しています」というレファレンスを頼んだところ、後日手渡されたのは白い紙の束。そこに描かれていたのは、ふたりの少女のひと夏の物語だった。「物語の王国」シリーズ。

『ゴースト』 ジェyson・レノルズ/作 ないとうふみこ/訳 小峰書店 2019.7 ¥1500

おれの足が速いことに気づいたのは、アル中の父親に発砲されて逃げたあの夜だった。おれの体の中には悲鳴が渦巻き、学校でもめごとが絶えない。そんなスラム街に住む少年が、中学生の陸上チームに入り、熱い心を持った監督や仲間との関わりの中で、自分の弱さに向き合い、成長していく様が、ユーモラスにテンポよく語られる。全米図書賞 YA 部門最終候補作に選ばれた作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『えがおをわすれたジェーン』 ジュリー・カプロー/作 ドナ・ピンカス/作 ベス・シュピーゲル/絵 亀岡智美/訳 誠信書房 2019.6 ¥1700

1か月前に父親を亡くし、悲しみにくれるジェーン。笑顔が無くなってしまったジェーンのことを心配した大人たちは、いちごつみに誘ったり、父親との思い出話を聞き出したりして、ジェーンの心をときほぐしてくれた。父親の死を受け入れていく過程を描く絵本。養育者へ向けた、親の死別に対処するための詳細なアドバイスも収録。「子どものトラウマ治療のための絵本」シリーズ。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『ヒロシマ消えたかぞく』 指田和/著 鈴木六郎/写真 ポプラ社 2019.7 ¥1650

広島のはりまや町で床屋を営んでいた鈴木一郎さん。写真が趣味の一郎さんは、子どもたちの笑顔や飼っていた動物たち、日々の暮らしや広島の風景などを、アルバムに丁寧にまとめていた。あの日、ヒロシマに落とされた原子爆弾が、この家族を消し去った。広島平和記念資料館で展示されていた記録写真を見た著者が、戦争や原爆の事実をより多くの人に知ってほしいとの思いで作った作品。

『世界の外あそび学じてん』 こどもくらぶ/編さん 今人舎 2019.5 ¥2500

日本の遊び「ハンカチ落とし」のハンカチは、外国では木の棒や手袋を使用。世界各国の外遊びを、「おにごっこ」「ボールゲーム」「的当てあそび」などに分けて紹介。必要人数、用具や場所、遊びのポイント、その国の情報も簡潔に記述。巻頭特集『「ケンパ」という外あそび』では、世界各国のケンパの違いが示され、興味深い。国際理解教育や、外国人との交流時に役立つ情報が満載。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『プラスチック・プラネット 今、プラスチックが地球をおおっている』 ジョージア・アムソン=ブラッドショー/作 大山泉/訳 評論社 2019.7 ¥2200

海に漂う、分解しないプラスチックごみ。このごみのせいで野生生物が死んでしまう。処理することで大気汚染をおこし温室効果ガスを発生させてしまう。ひいては、人の生活にも悪影響をあたえてしまう。日常生活をおくるうえで、なくてはならないプラスチックのことを知り、この深刻なプラスチック問題の解決のためには何が必要か、そして私たちは何ができるかを考えさせる1冊。

<ノンフィクション—中学生から>

『ソングジュの見た星 路上で生きぬいた少年』 リ・ソングジュ、スーザン・マクレランド/著 野沢佳織/訳 徳間書店 2019.5 ¥2000

軍の上層部で活躍する父親の息子として、平壤で豊かな生活を送っていたソングジュ。11歳になる1997年、突然、両親と引越した先は極貧の町だった。食料を得るため出かけた父が、次に母が行方不明となり、浮浪児となった彼は、同じような境遇の少年たち6人と強い絆を育み、生き抜いていく。16歳で脱北した著者が、北朝鮮での過酷な少年時代を語った自伝的ノンフィクション。

『答えは本の中に隠れている』 岩波ジュニア新書編集部/編 岩波書店 2019.6 ¥860

教員、学校司書、元養護教諭など子供たちに寄り添う12人が、悩み多き中高生へ、生きる上でのヒントが詰まった本をテーマ別に紹介。「思春期の憂鬱」「月曜日の朝にお腹が痛くなったら」「正しいHの教科書」「意識高い系ですが、何か？」など興味を持った部分から読める。『神様のカルテ』の作者・夏川草介の高校生向けの講演も収録。各著者のオススメ本一覧あり。岩波ジュニア新書。

『この数学、いったいつ使うことになるの?』 Hal Saunders/著 森園子、猪飼輝子、二宮智子/訳 共立出版 2019.5 ¥2000

米国の数学教師である著者が、「いつ使うことになるのか?」という生徒の問いに答えるべく、実社会で使われている数学について、訪問取材して具体例を収集。職業と数学の内容の一覧表を作成し、分数などの算数計算、面積などの実用的な幾何学、初歩の代数などについて、様々な職業における具体的な問題例を挙げる。解答だけでなく、訳者による単位の換算表や解説、補足説明あり。

<研究書>

『子どもの本のもつ力 世界と出会う60冊』 清水真砂子/著 大月書店 2019.6 ¥1600

「ゲト戦記」の翻訳や児童文学評論で知られる著者が、78歳になった今、自分の体験や時代の流れの中で考え続けてきた子供の本の魅力を、熱い思いで語る。「かわいい」という言葉の範疇に入らない芸術性豊かな絵本や人生を考えさせる児童書、子供のひとり居や静けさを大切にすくれた物語など、子供たちに贈りたい60冊の本を見開きで紹介。『クレスコ』連載を単行本化。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。